

リニア実験線の車両から出火 作業員3人重軽傷

①

読経新聞

2019.10.7 22:25 社会事故・火災

7日午後4時5分ごろ、山梨県都留市朝日曾雌のJR東海山梨リニア実験線車両基地で、車両点検中に機械から出火。作業員の衣服に燃え移り、3人がやけどを負った。

大月署によると、東京都八王子市南町の窪大輔さん(31)と千葉県習志野市谷津の大瀬良海人さん(29)が重傷。三重県伊勢市下野町の樋口芳孝さん(41)が軽傷。

JR東海東京広報室は当初、「詳細を把握していない。公表するかどうか未定」としていたが、その後取材に応じ「電気回路のスイッチを入れたときに発火した。負傷した3人のうち2人が社員で1人がメーカーの作業員だが、誰が社員かは言えない」とした。

リニアをめぐるのは、平成3年に宮崎県の宮崎実験線で、タイヤのパンクが原因で車両が全焼する事故が起きている。

(令和元年) 10月8日 火曜日 山梨日日

②

都留・実験線

作業員3人重軽傷

リニア車内点検中出火

7日午後4時5分ごろ、都留市朝日曾雌のリニア中央新幹線の走行試験が進められている山梨リニア実験線で、リニアモーターカー車両内から出火し、車内に設置されていた機械を点検中のJR東海社員ら男性3人の衣服に燃え移った。3人は顔や手にやけどを負い、甲府市内などの病院に搬送され、2人が重傷、1人が軽傷のもよう。大月署が労災事故として、出火原因などを調べている。

〈報道部、地域報道部〉

大月署とJR東海によると、現場は山梨リニア実験線内の車両基地に止めてあったリニア車両内。同署によると、病院に搬送されたのは、東京都八王子市南町、会社員窪大



山梨リニア実験線で試験走行を繰り返しているリニア車両は、都留・山梨リニア実験センター(3日撮影)

NHK. データニュース (19. 10. 8)

「リニア車内で設備に電気を送るための配電盤を点検する作業中」と報道。

輔さん(31)と、千葉県習志野市谷津、会社員大瀬良海人さん(29)、三重県伊勢市下野町、会社員樋口芳孝さん(41)の3人。窪さんは顔や右腕にやけどを負い重傷、大瀬良さんも顔や背中をやけどとして重傷のもよう。樋口さんは左手などにやけどを負い軽傷。このうち2人がJR東海の社員で、もう1人が関連企業の作業員という。

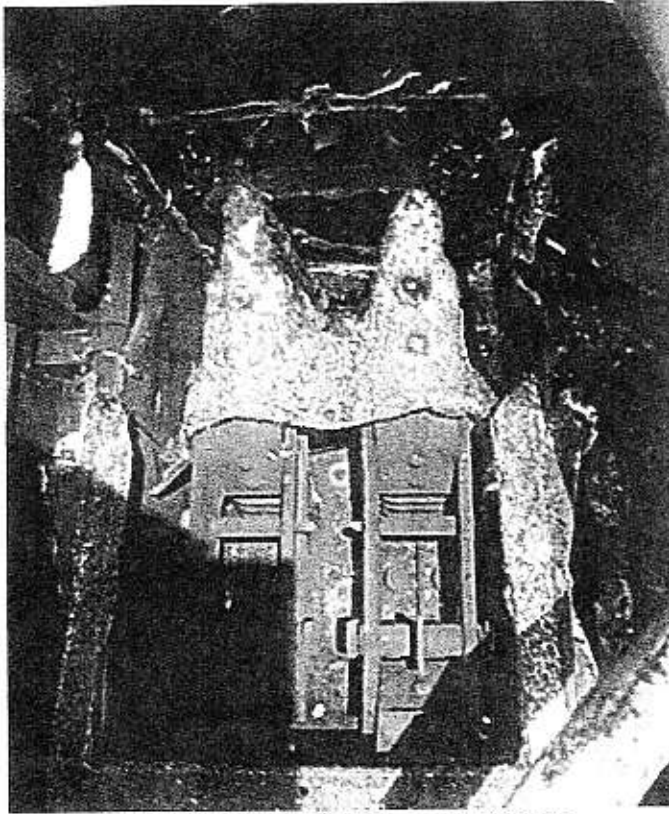
JR東海によると、車両基地に止めてあったリニア車両の5号車から発煙した。この車両は7日の走行試験では使用していないという。JR東海広報東京広報室は「状況を確認している」としている。

同署は機械の点検作業中に車内から何らかの原因で出火し、3人の衣服に燃え移ったとみて、出火原因を調べている。



都留・車両基地 作業の3人重軽傷

リニア車内で出火



火花が出た作業用断路器—JR東海提供

7日午後4時過ぎ、都留市朝日曾峠の山梨リニア実験線の車両基地で停車中のリニアモーターカーの車内で出火し、作業していたJR東海の社員ら3人が顔や腕などをやけどとする重軽傷を負った。リニア車内での火災は初めてといひ、同社が詳しい原因を調べている。

【野呂賢治、高田奈美】

大目撃などによると、やけどを負ったのは、JR東海の31歳と29歳の男性社員と、協力会社の41歳の男性作業員。JR東海の2人は顔や腕などをやけどする重傷で、作業員の男性は手に軽いやけど。いずれも命に別条はないという。同署は労災事故として作業手順に問題がなかったかなどを調べている。

JR東海によると、火花が出たのは、車両基地内に停車していたリニアの先頭車両の機器室の床下に設置された断路器。この断路器は車両内の空調や照明などに使う電気を通したり遮断したりする装置で、3人は計測データを抜き取るため、電気をいったん遮断。その後、電気を通した際に火花が出て、3人の作業着に燃え移ったとみられる。

現在リニア実験線にリニアモーターカーは2編成(1編成5両)あり、火災が起きた車両が最後に行っていたのは9月30日。8月30日には体験乗車で一般の乗客を乗せて走行している。

JR東海広報部の担当者「事態を重く受け止めている。原因究明に全力を注ぎ、適切に対応したい」としている。一方で、「走行の安全性に問題はない」として15、16両の両日のリニア体験乗車(約1800人)は予定通り実施する方針という。

(山梨県、リニア推進課の対応)
「現在、県としては試験の件についてJR東海に尋ねているが、それ以外のことはJR東海でないと答えられない。今後、事故原因等についてどうJRに対応するのか、検討中である」 (10/9 9:20, Tel)

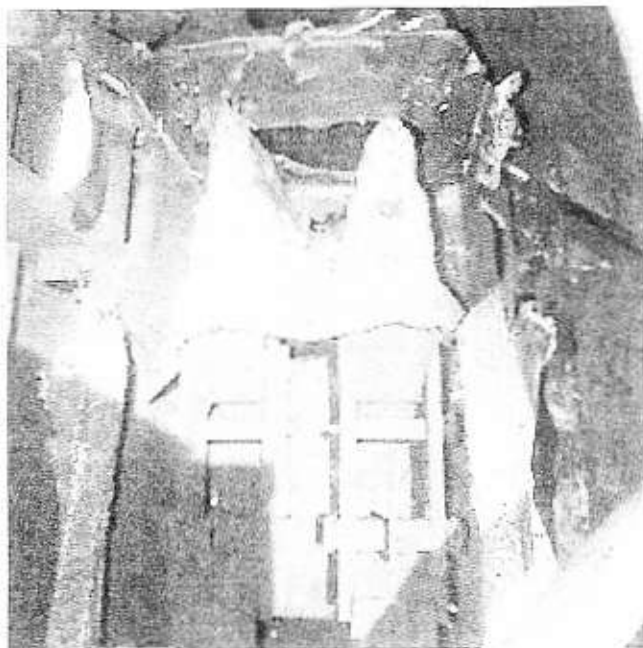
リニア実験線は、JR東海が2027年に東京・品川―名古屋間の開業を目指して、上野原市と笛吹市の42.8キロを結ぶ山梨リニア実験線で行き試験を続けている。

リニア車両から火花

やけどで作業員3人重軽傷

都留市朝日曾畦の山梨リニア実験線の車両基地で7日午後4時5分ごろ、試験車両内での作業中、火花が作業員3人の服に燃え移った。大月署によると、JR東海社員の窪大輔さん(31)と東京八王子市と大瀬良海人さん(29)と千葉県習志野市が顔や腕などに重いやけど。別会社の男性(41)が左手に軽いやけどをした。

署やJR東海によると、系一の前頭車両で起きた。事故は車両基地に停車中の車両データの抜き取り作業5両編成の試験車両「L0」後、感電を防ぐために切つ



事故で溶けた部品。点検作業を終え、スイッチを入れたときに火花が出たというJR東海提供

ていた電気回路のスイッチを入れたところ、火花が出て3人の服に燃え移ったという。署が事故の原因を調べている。

JR東海は2027年のリニア中央新幹線開業をめざし、建設を進めている。山梨リニア実験線は1997年に完成。13年に笛吹市と上野原市を結ぶ総延長42・8キロに延伸され、走行試験が続けられている。事故があった車両は7日は使わ

れていなかった。一般向けの体験乗車会では8月末に使用したという。

事故を受け、県駅が設置される予定の甲府市の樋口雄一市長は8日、定例会見で「8年後に実用化するということで、国民、県民、市民に安心して乗っていたら、ことに尽きる。詳細を把握し、事故が起きないよう対策をしてほしい」とJR東海に求めた。

「重く受け止め 全力で究明」

JR東海が説明会

「重く受け止め、原因を全力で究明する」。作業員3人が重軽傷を負った事故を受け、JR東海は8日、県庁で記者への説明会を開いた。山梨リニア実験線で作業中に出火し、けが人が出たのは初めてという。

事故当時は5人一組で作業をしていた。重傷の2人は会話ができた状態で、走行中の事故ではないため国への報告義務はないとしている。

JR東海によると、火花が出たのは車両全体のプレーカーにあたる部品で、車両床下にある。電気を入れたり、切ったりするのは年6、7回で、走行中は照明や空調に電気を供給するため「オン」の状態にある。

JR東海中央新幹線推進本部の草田栄久・担当部長は、走行に必要な電力は別系統で供給されるとし、「走行の安全性に直接影響するものではない」と強調。走行試験や15、18日に予定されている一般向けの体験乗車会は実施するという。(野口憲太、市川由佳子)

